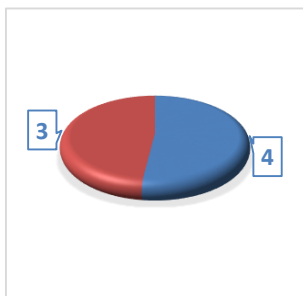
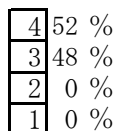


全体傾向と課題

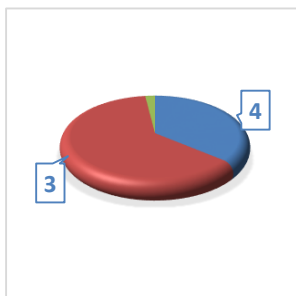
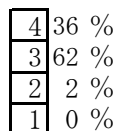
本校の学校評価は、自己評価（教職員）と学校関係者評価（保護者評価）で年に一度実施している。また、昨年度から児童を対象とした学校生活調査を学期に1回実施し、子ども自身の自己評価も行っている。この評価結果を元に、次年度の学校経営に反映させている。5段階評価から4段階評価に移行して3年目になり、良い（4・3）か悪い（2・1）の評価が明確になると共に、3年間の比較もすることができる。項目は全16項目で、前半9項目が「学校は～」で始まる教職員・学校に関する質問。また後半7項目は「児童は～」又は「お子さんは～」で始まる児童に関する質問の構成になっている。全体的に肯定の評価が9割を越えているが、平均評価は昨年度より低くなってしまっている。このことを真摯に受け止め、学校教育目標の具現化を目指し、教職員一同さらなる努力を続けていきたい。

各項目別の分析 （各評価の割合は小数点以下四捨五入で処理をしているため、合計が100にならない場合がありますがご了承下さい。）

No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
						4	3	2	1
1	教職員	学校は学校教育目標達成のために努力している。	3.52	3.77	3.74	52%	48%	0%	0%
	保護者	学校は学校教育目標達成のために努力している。	3.34	3.44	3.35	36%	62%	2%	0%



教職員

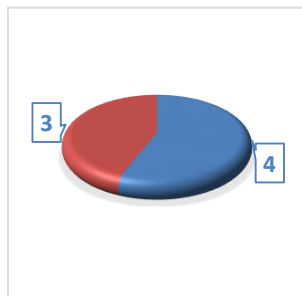


保護者

教職員の平均評価が前年より下がっているのは、「3」をつける教職員の割合が増加した為である。職員には、年度当初から学校経営の重点を具体的に12項目示してある。教職員の意識やモチベーションを年間通して維持する為に、人事評価の面接を活用し、短いスパンで検証するよう努めたい。保護者の評価の「2」が2%有り、昨年度より低下した。教職員が学校教育目標達成のために全力を注ぎ、保護者の評価が向上していくよう努めていきたい。

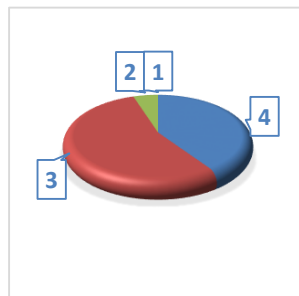
No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
						4	3	2	1
2	教職員	学校は教育内容を保護者・地域に知らせている。	3.56	3.73	3.71	56%	44%	0%	0%
	保護者	学校は教育内容を保護者・地域に知らせている。	3.34	3.42	3.35	40%	54%	5%	0%

4	56%
3	44%
2	0%
1	0%



教職員

4	40%
3	54%
2	5%
1	0%



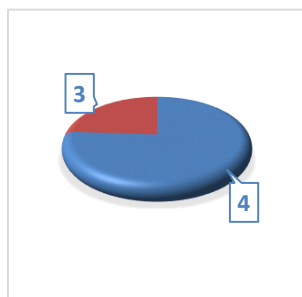
保護者

家庭や地域の方々が学校の様子を直接見る機会は年4回の学習参観や、運動会、メロディーフェスティバル、東っ子まつりなどの学校行事の時であるが、その機会だけで教育内容を理解して頂くことは難しい。

その為、学校における教育活動を、家庭や地域に知らせるために学校日より、学年日より、ホームページ等を活用し、情報発信しているが、今年度、保護者の肯定的な評価が4%減少してしまった。今後は、具体的な子どもの活動をより多く発信するように努めていきたい。

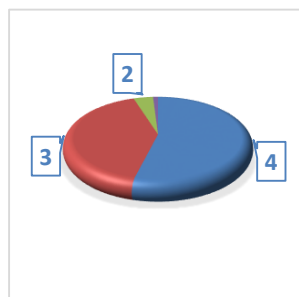
No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
						4	3	2	1
3	教職員	学校は来校者や保護者に対して親切に対応している。	3.76	3.91	3.9	76%	24%	0%	0%
	保護者	学校は、来校者した保護者に対し丁寧に対応している。	3.48	3.55	3.52	54%	41%	4%	1%

4	76%
3	24%
2	0%
1	0%



教職員

4	54%
3	41%
2	4%
1	1%

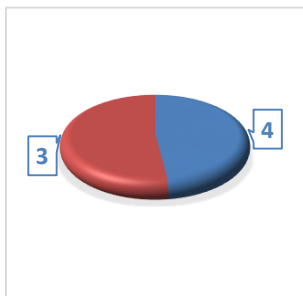


保護者

保護者の肯定的な評価は昨年度より4%減少してしまった。職員の肯定的な評価は100%ではあるが、十分にできていると評価している数値は下がってしまっている。このことを真摯に受け止め、教職員の挨拶や返答、服装等について見直すとともに、保護者や来校者に対して、教職員一同誠意を持ってより丁寧な対応を心掛けていきたい。

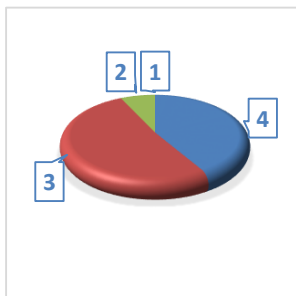
No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
4	教職員 学校は熱心で分かりやすい授業に努めている。	3.48	3.36	3.58	4 48%	3 52%	2 0%	1 0%
	保護者 教職員は、熱心で、分かりやすい授業に努めている。	3.34	3.37	3.27	4 41%	3 51%	2 7%	1 0%

4	48%
3	52%
2	0%
1	0%



教職員

4	41%
3	51%
2	7%
1	0%

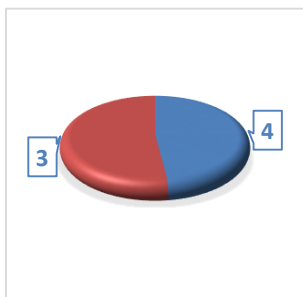


保護者

教職員の平均評価は昨年度よりも0.12上がっているが、保護者の評価は0.03下がっている。本校の研究主題は「主体的に問題を解決する子どもを育てる指導方法のあり方」であり、教職員は子ども達の学習意欲の向上の為に、学習形態を工夫するなど試行錯誤を繰り返しながら指導に当たっている。その為、子ども達にとっては主体的に学習をする場が増え、分かり易い授業になってきてはいると感じている。しかしながら、保護者の平均評価が0.03下がっていることから、更に分かり易い授業となるよう今後も校内研究を進めていきたい。

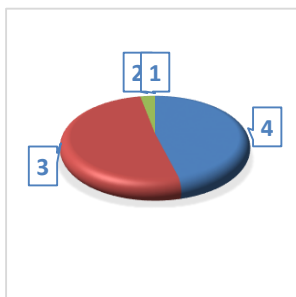
No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
5	教職員 学校は体験的な学習を通じて自然や人々と触れ合う機会を設けている。	3.48	3.55	3.61	4 48%	3 52%	2 0%	1 0%
	保護者 学校は、体験的な学習を通じて自然や人々と触れ合う機会を設けている。	3.43	3.43	3.41	4 46%	3 51%	2 3%	1 0%

4	48%
3	52%
2	0%
1	0%



教職員

4	46%
3	51%
2	3%
1	0%

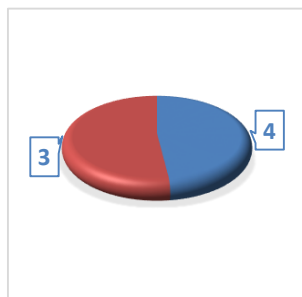


保護者

体験的な学習は、教科指導、校外学習や林間学校・修学旅行など全般を通じて積極的に取り入れている。生活科や総合的な学習の時間では、各学年、栽培活動や人との交流活動に意欲的に取り組んでいる。教職員に関しては、全職員が肯定的な評価になっており、意識して指導に当たっている。今後も、体験的な活動を十分に取り入れ、子ども達の「生きる力」の育成を目指して行きたい。

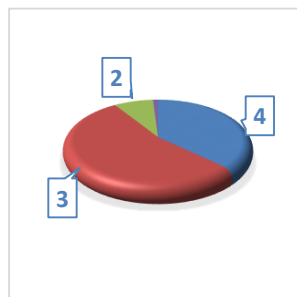
No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
6	教職員	学校は清掃活動に力を入れている。	3.48	3.55	3.52	4	3	2	1
						48%	52%	0%	0%
	保護者	学校は、清掃活動に力を入れて取り組んでいる。	3.27	3.35	3.3	4	3	2	1
						37%	54%	8%	1%

4	48 %
3	52 %
2	0 %
1	0 %



教職員

4	37 %
3	54 %
2	8 %
1	1 %

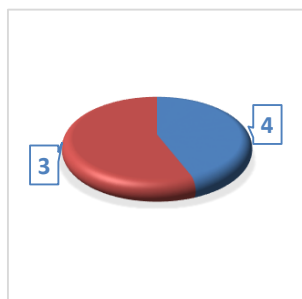


保護者

本校の児童の多くは、大変熱心に清掃活動に取り組んでいる。しかしながら、年々児童数が減少していく中で、この広い校舎敷地及び校庭等の屋外の敷地全てを十分に清掃していくことは難しい状況もある。3, 4年生のボランティア清掃, 5, 6年生の特別清掃隊, 生活委員会による朝清掃など児童の自主的な活動は広まってきているが、行き届かない部分も残っている。今後は、清掃活動に加えて、学校を綺麗に大切に使う姿勢を育んでいきたい。

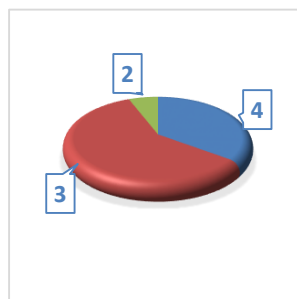
No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
7	教職員	学校は、防災・安全指導に力を入れて取り組んでいる。	3.44	3.55	3.61	4	3	2	1
						44%	56%	0%	0%
	保護者	学校は、防災・安全指導に力を入れて取り組んでいる。	3.28	3.37	3.36	4	3	2	1
						35%	59%	6%	0%

4	44 %
3	56 %
2	0 %
1	0 %



教職員

4	35 %
3	59 %
2	6 %
1	0 %

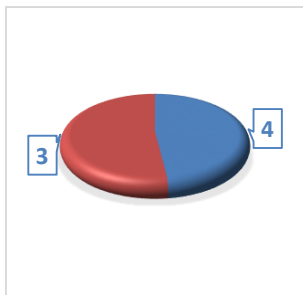


保護者

平均評価について教職員が0.11, 保護者が0.09下がってしまった。昨年度実施した防災教室は実施できなかったが、定期的に校内での防災訓練, 引き渡し訓練等を行ってきた。また、登下校時の身の守り方についても適宜各学級で指導を行うなど、安全指導には力を入れてきているが、十分ではないと感じている保護者の方が6%いることを重く受け止め、今後も防災・安全指導についてはしっかりと取り組んでいきたい。

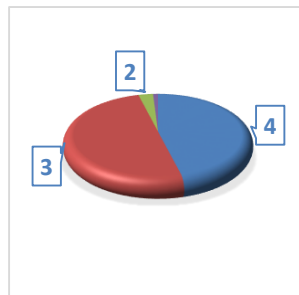
No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
8	教職員 学校は、生徒指導（挨拶・返事・くつの整理等）に力を入れて取り組んでいる。	3.48	3.82	3.68	4 48%	3 52%	2 0%	1 0%
	保護者 学校は、生徒指導（挨拶・返事・くつの整理等）に力を入れて取り組んでいる。	3.40	3.41	3.42	4 46%	3 50%	2 3%	1 1%

4 48 %
3 52 %
2 0 %
1 0 %



教職員

4 46 %
3 50 %
2 3 %
1 1 %

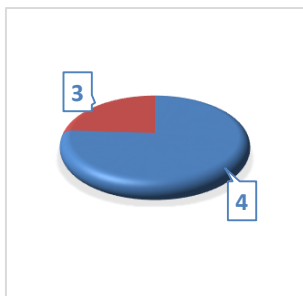


保護者

生活委員会を中心に全校で「挨拶運動」に取り組み、校内では多くの児童が気持ちの良い挨拶ができるようになってきている。まだ、受け身の児童もいるが、挨拶をされれば返すことができている。返事や靴の整理についても各学級で取り組み、児童は意識して生活している。保護者の平均評価は、昨年度より0.1下がってしまったが、肯定的な評価は96%となっている。今後も、生徒指導に力を入れ、保護者の方の平均評価が3.6（9割）を越えるよう目指していきたい。

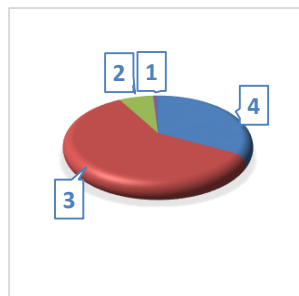
No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
9	教職員 学校は、いじめなど個々に問題を抱える児童に対して必要な支援を行っている。	3.76	3.73	3.71	4 76%	3 24%	2 0%	1 0%
	保護者 学校は、いじめなど、個々に問題を抱える児童に対し支援を行っている。	3.24	3.25	3.28	4 33%	3 59%	2 7%	1 1%

4 76 %
3 24 %
2 0 %
1 0 %



教職員

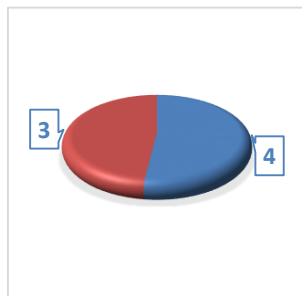
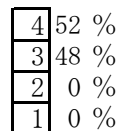
4 33 %
3 59 %
2 7 %
1 1 %



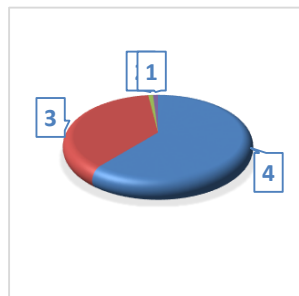
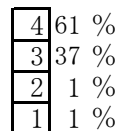
保護者

今年度も、年2回のいじめアンケートやセクハラ・体罰調査、個人面談などを実施した。さらに、3年生以上の児童についてはQ-U検査を実施し、児童の困難に寄りそい、支援を行ってきた。支援方法は、校内委員会を開くなどし、担任だけでなく「チーム東小」という形で、様々な立場の教職員が協力して行っている。保護者の方の平均評価は0.01下がってしまったが、肯定的な評価は2%上がっている。しかしながら、8%の保護者の方が否定的な評価であったのは、まだ個々が抱えている問題がうまく解消していない児童がいるためであると考えられる。今後も、児童の気持ちに寄りそうという姿勢で教職員全体で支援を続けていきたい。

No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
10	教職員 児童は学校に楽しく登校している。	3.52	3.32	3.48	4 52%	3 48%	2 0%	1 0%
	保護者 お子さんは、学校に楽しく登校している。	3.59	3.58	3.58	4 61%	3 37%	2 1%	1 1%



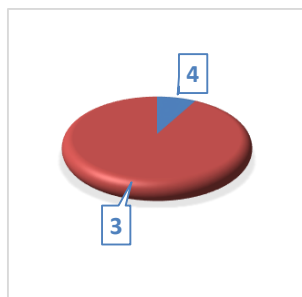
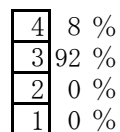
教職員



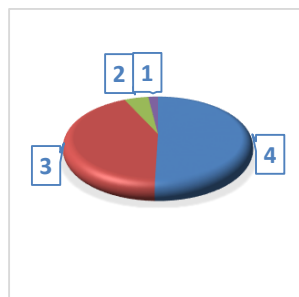
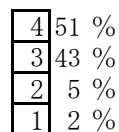
保護者

昨年度の平均評価と比べると、教職員が0.2、保護者が0.01上昇している。保護者の否定的な評価は昨年度より3%減少した。しかしながら、2%の保護者の方が否定的な評価をしていることから、「分かる授業」「居心地の良い学級づくり」「部活動」などのさらなる充実を目指し、どの児童も楽しく登校できる学校づくりを今後も目指していきたい。

No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
11	教職員 児童は熱心に授業に取り組み、学習した内容について理解している。	3.08	3.09	3.45	4 8%	3 92%	2 0%	1 0%
	保護者 お子さんは、熱心に授業に取り組んでいる。	3.44	3.37	3.38	4 51%	3 43%	2 5%	1 2%



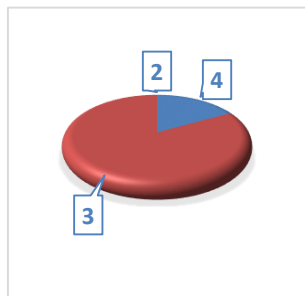
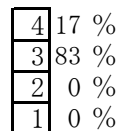
教職員



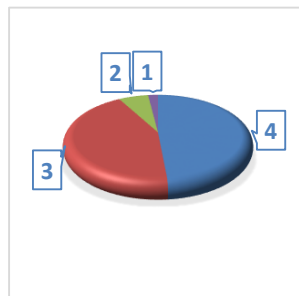
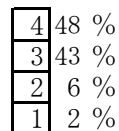
保護者

本校の研究主題が「主体的に問題を解決する子どもを育てる指導方法のあり方」ということから、教職員は教材提示の仕方の工夫、学び合いの場の工夫などを行い、分かり易い授業を目指して取り組んではいる。子ども達は意欲的に学習に取り組んでいるが、まだまだ学習した内容の定着につながらない部分もある。今後も、子ども達のやる気を引き出す授業づくり、分かり易い授業づくりを心掛け、子ども達が主体的に学習に取り組めるよう努めていきたい。

No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
12	教職員 児童は宿題や自主学習等の家庭学習を行っている。	3.17	3.00	3.39	4 17%	3 83%	2 0%	1 0%
	保護者 お子さんは、宿題や自主学習を家で行っている。	3.38	3.39	3.37	4 48%	3 43%	2 6%	1 2%



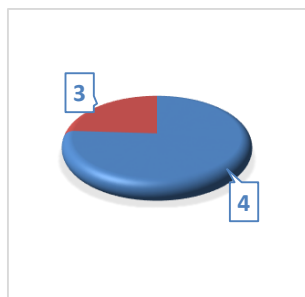
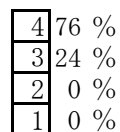
教職員



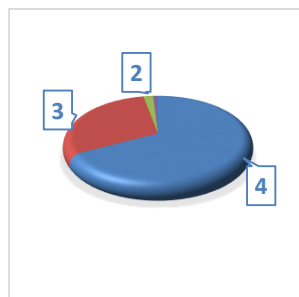
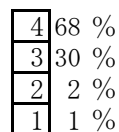
保護者

宿題や自主学習への取り組みについて、保護者の平均評価は0.01減少しているが、教職員の平均評価は0.17上昇している。今年度の職員の評価は全て肯定的な評価となっていることから、家庭学習の習慣は定着してきている。家庭学習に関しては、学校と家庭とが連携していかなくては十分な成果は得られないので、今後もどのような課題が出ているのかが家庭にも分かるようにして、協力を得る必要がある。基礎基本の学力の定着には反復学習が不可欠であるため、継続的に家庭学習に取り組めるよう家庭と協力して支援していきたい。

No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
13	教職員 児童は学校行事（運動会・校外学習等）に楽しく参加している。	3.76	3.86	3.74	4 76%	3 24%	2 0%	1 0%
	保護者 お子さんは、学校行事（運動会・校外学習等）に楽しく参加している。	3.64	3.76	3.7	4 68%	3 30%	2 2%	1 1%



教職員

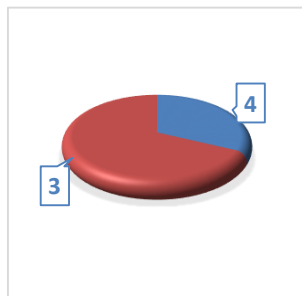


保護者

教職員は学校行事を通して、一人一人に役割を与え、責任を持ってやり遂げさせることで成就感や感動を味わわせられるよう、企画・運営を心掛けている。児童も各行事に対して真剣に取り組み、友達と協力してやり遂げる達成感を味わい成長している。今年度の平均評価は、教職員が0.1、保護者が0.08下がってしまった。各行事のねらいを明確にし、児童達が生き生きと活躍できる学校行事を目指して行きたい。

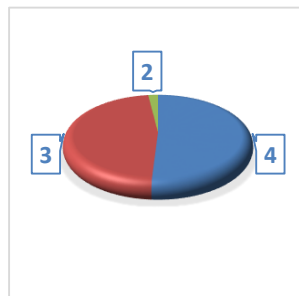
No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
14	教職員	児童は社会や学校のルールを守って生活している。	3.32	3.27	3.29	4 32%	3 68%	2 0%	1 0%
	保護者	お子さんは、社会や学校のルールを守って生活している。	3.48	3.52	3.46	4 51%	3 47%	2 2%	1 0%

4	32 %
3	68 %
2	0 %
1	0 %



教職員

4	51 %
3	47 %
2	2 %
1	0 %



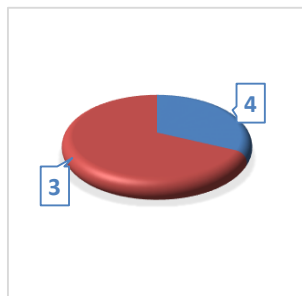
保護者

昨年度と比べて、教職員の平均評価は0.05上昇したが、保護者の平均評価は0.04下がってしまった。本校の児童は、基本的なルールや学校のきまりをしっかりと守ろうとする児童がほとんどである。しかしながら、時折自分の気持ちを優先してしまう部分もあり、ルールを守って生活することの必要性を指導している。

また、プライベートな時間のスマートフォンやネット等によるSNSの使い方によるトラブルも心配されるため、社会のルールやマナーについて継続して指導していきたい。

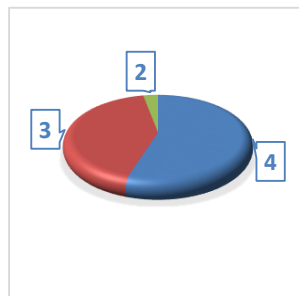
No.		項 目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
15	教職員	児童は学校や学級で好ましい友達関係を持っている。	3.32	3.41	3.45	4 32%	3 68%	2 0%	1 0%
	保護者	お子さんは、一緒に遊んだり勉強したりする友だちがいて、友だちにやさしく接することができる。	3.52	3.57	3.47	4 55%	3 42%	2 3%	1 0%

4	32 %
3	68 %
2	0 %
1	0 %



教職員

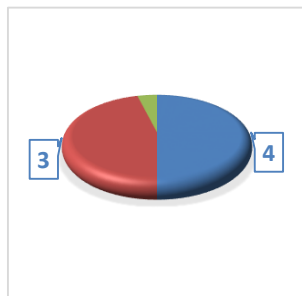
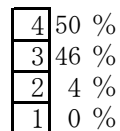
4	55 %
3	42 %
2	3 %
1	0 %



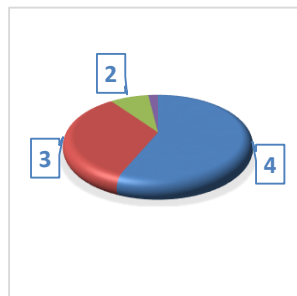
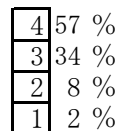
保護者

本校の児童は、友達に対して思いやりを持ち優しく接する児童が多い。学校は社会生活を学ぶ場である。集団には様々な個性を持った人たちがいて、その中でよりよい人間関係を築くためにはどうしたらよいのかということ学ぶ場である。道徳が教科化されたことを受けて、本校では今年度も道徳の授業研究を数多く行い、子ども達の心の成長を目指してきた。今後も、児童が好ましい人間関係を築けるよう機会あるごとに支援を続けていきたい。

No.	項目	H30平均評価	H29年	H28年	評価別割合			
16	教職員 児童は外で元気に遊んだり，運動したりしている。	3.46	3.64	3.61	4 50%	3 46%	2 4%	1 0%
	保護者 お子さんは，外で元気に遊んだり，運動したりしている。	3.46	3.48	3.45	4 57%	3 34%	2 8%	1 2%



教職員



保護者

昨年度と比べて，教職員の平均評価が0.18，保護書の平均評価が0.02下がった。また，否定的な回答は，教職員が4%保護者が10%であった。東小学校は広い校庭に恵まれているため，児童は休み時間だけでなく朝も，放課後も元気に思い思いの運動や遊びに励んでいる。また，業間休みを利用し，全校児童で体力作りに取り組んでいる。多くの児童が「持久走」の時期には，休み時間に自主的に持久走練習を行ったり，「縄跳び」の時期には，朝から放課後まで時間を見つけては新しい技に挑戦したりと大変意欲的に運動に励んでいる。中には，運動が苦手な児童もいるため，それが数字に表れてきているものと思われる。児童の体力向上を目指し，今後も誰もが楽しく運動ができる仕組み作りに取り組んでいきたい。

学校評議員(学校関係者)の意見とまとめ

○学校評価については，毎年の結果を数字で比較しているが，毎年評価する人もかわり個々で評価基準も違ってくるため単純に数字では実態が表れてこない。否定的な評価に関しては，理由を書く欄を設けたら良いのではないか。その方が意見を反映しやすい。

○No4やNo9のように，保護者と教師の評価の差については，教師側の思いだけでは数字にはつながらない。はっきりと保護者に伝わるような方法で取り組んでいかななくてはいけない。

○No9について，学校は集団生活を学ぶところなので喧嘩やいじめがあったとき，子ども達自身がどうしていったらいいのかを経験を通して学んでいって欲しい。教師が解決するのではなく，あくまでもサジェスションをする役割を果たして欲しい。

○No10について，教員も保護者も評価が上がっていることから，子ども達が楽しく学校に行けているようなので良かった。

○No12について，学習に関する興味付けは小学校でしっかりとやって欲しい。家ではなかなか難しい児童もいるので，授業の中でしっかりとやって欲しい。教師からの声かけを工夫して，子ども達のやる気を育てて欲しい。小学校で学習に関する興味付けができれば，中学，高校にもつながっていく。

○若い教員が増えてきている。若いことのメリット，デメリットがあるが，若くてもプロとしてのスキルが必要であるので，きちんと研修等を重